

事業計画書目次

[環境創造局]

9款5項1目

(単位：千円)

計画書頁	事業名	令和6年度		令和5年度		増△減(6-5)		新規・拡充
		事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	
1	横浜市立動物園 管理運営事業	2,362,497	2,252,831	2,371,783	2,267,967	△ 9,286	△ 15,136	
2	動物収集事業	14,452	5,452	14,574	5,574	△ 122	△ 122	
3	繁殖センター 管理運営費	61,825	61,123	56,821	56,133	5,004	4,990	
4	希少動物 海外交流事業	1,375	1,375	1,525	1,075	△ 150	300	
5	野生鳥獣対策事業	18,739	11,968	18,471	11,704	268	264	
6	動物園基金事業	20,700	5,200	13,220	5,219	7,480	△ 19	
	計	2,479,588	2,337,949	2,476,394	2,347,672	3,194	△ 9,723	

令和6年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	1					
歳出予算科目	一般会計	9	款	5	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	横浜市立動物園管理運営事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	2,362,497	0	1,600	108,066	0	2,252,831
令和5年度	2,371,783	0	1,600	102,216	0	2,267,967
増▲減	▲9,286	0	0	5,850	0	▲15,136

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	2,294,888	2,303,260	2,373,334	2,362,497	2,362,497
	市債+一般財源	2,192,094	2,200,753	2,263,668	2,252,831	2,252,831
決算	事業費	2,336,090	2,367,188			
	市債+一般財源	2,216,205	2,260,325			

事業概要 (アクティビティ)
よこはま動物園ズーラシア、野毛山動物園、金沢動物園、野毛山公園（動物園を除く。）及び金沢自然公園（動物園を除く。）を指定管理者（（公財）横浜市緑の協会）が一体的に管理運営することにより、来園者サービスの向上を図ります。

事業指標① (アウトプット)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
3園入園者数	単位	目標	298	298	298	298	298	298	298
	万人	実績	185.6	183.4					
事業指標② (アウトカム)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
来園者アンケートにおける満足度	単位	目標	—	—	98	98	98	98	98
	%	実績	98	98					

事業目的
横浜市立動物園は、都市公園法に基づく公共の福祉の増進に資するため設置された施設であり、博物館法に基づく教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に設置された博物館相当施設です。生物多様性保全の重要性を人々に伝える自然との架け橋としての役割を担うとともに、動物たちを知り動物たちから感動を得ながら、いのちの大切さを学ぶ場を提供し、生きものと共生する文化の構築に貢献します。

背景・課題
動物園の管理運営のうえで必要となってくる光熱費・飼育費等の価格高騰が課題となっている。

根拠法令・方針決裁等
横浜市動物園条例、横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱、横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会要綱、横浜市動物園等の指定管理者の評価に関する要領

根拠・データ等

- 平成18～22年度は、指定管理者として（公財）横浜市緑の協会がよこはま動物園ズーラシアの運営。
- 平成19年度までは、市が野毛山動物園と金沢動物園を運営。
- 平成20～22年度は、野毛山動物園と金沢動物園を指定管理者制度に移行し、3園一体管理に移行。
- ※指定管理者：（公財）横浜市緑の協会
- 平成23～27年度は、引き続き3園一体管理で運営（第2期指定管理期間、指定管理者：（公財）横浜市緑の協会）
- 平成23～24年度に、外部委員会による動物園にふさわしい運営体制の検討の実施。
- 平成25年4月に、よこはま動物園ズーラシア「アフリカのサバンナ」を一部開園、平成27年4月に全面開園。
- 平成28年4月に、金沢動物園「オセアニア区」リニューアルオープン。
- 平成28～令和7年度は、引き続き3園一体管理で運営（第3期指定管理期間、指定管理者：（公財）横浜市緑の協会）

事業スケジュール

- 3動物園にかかる下記業務
- 管理運営にかかる業務（通年）
- 指定管理選定業務（～3月）
- 事業評価業務（～10月）
- モニタリング業務（9月・2月）
- その他連絡調整（通年）

事業開始年度 平成20年度

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
	1	横浜市立動物園管理運営事業	2,362,497	2,371,783	▲9,286	指定管理料支援額の見直しによる減
	細事業合計	2,362,497	2,371,783	▲9,286		

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。

課長 白井 智廣 係長 関 美有希 小島 千明

令和6年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	2					
歳出予算科目	一般会計	9	款	5	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	動物収集事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	14,452	0	0	9,000	0	5,452
令和5年度	14,574	0	0	9,000	0	5,574
増▲減	▲122	0	0	0	0	▲122

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	14,905	10,315	14,452	14,452	14,452
	市債+一般財源	5,905	5,315	5,452	5,452	5,452
決算	事業費	2,672	10,462			
	市債+一般財源	2,672	5,568			

事業概要 (アクティビティ)
 横浜市の3動物園の動物展示の維持及び種の保存に必要な血統更新のために、種の保全推進員会で承認された保全収集計画に基づき、国内外の政府、自治体、動物園等と連携しての新規個体の収集と輸送を行います。さらに、計画推進に必要な情報交換・収集、計画の調整、生息地調査や技術習得などを促進し、動物園の魅力アップと種の保全事業を推進します。

事業指標① (アウトプット)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
動物収集実績	単位	目標	10	10	10	10	10	10	10
	件	実績	7	10					
事業指標② (アウトカム)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
種の保全及び展示種数維持されたことによる本市動物園の価値向上	単位	目標	前年度比90%以内の維持 (206種)	前年度比90%以内の維持 (206種)	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持	前年度比90%以内の維持
	%	実績	100%	100%					

事業目的
 動物の収集を通じて動物園の魅力アップと種の保全事業の推進、市民への環境教育の場の提供を図るだけでなく、本市が進める「横浜環境管理計画」の推進に貢献することでもあります。

背景・課題
 国際的な希少動物の保全をするうえで重要な海外との協力関係の構築が、コロナ禍等の影響で滞っています。さらに、欧米を中心とした飼育動物の「アニマルウェルフェア (動物福祉)」の基準の厳格化により、従来の飼育環境では海外からの動物収集が困難となりつつあり、飼育環境の改善が必要とされています。また、国際情勢等の影響で燃料費等が上昇し加えて円安による航空運賃その他の費用が増大しています。

根拠法令・方針決裁等
 種の保存法、博物館法、動愛法、横浜市動物管理要綱、種の保全のための繁殖、展示及び収集等の計画に関する取扱要領等

根拠・データ等
 ≪動物搬出入実績 (主なもの)≫
 4年度：ウンビョウ (米国)、ホッキョクグマ (国内) その他
 5年度：オオアライクイ (国内)、ホッキョクグマ (国内)、(予定) インドライオン (シンガポール)
 ≪調整・調査実績≫
 3年度：WAZA総会 (リモート)、ツシマヤマネコ関連会議、豊橋市とのインドゾウ繁殖に向けての打合せ
 4年度：WAZA総会 (スペイン・カナリヤ諸島)、SEAZA総会 (インドネシア)、ミソゴイ野生復帰事業調査 (新潟・佐渡)、アマミトゲネズミ飼育管理検討会議 (奄美)、ホッキョクグマ計画推進会議 (愛媛・とべ) など
 5年度：WAZA総会 (米国・サンディエゴ)、SEAZA総会 (マレーシア)、ニホンライチョウ学習会 (富山) 等

事業スケジュール
 1 動物の補充・交換は、保全収集計画に基づき相手方との調整がつき次第実施します。
 2 海外との収集活動は動物園組織の年次会議などに積極的に参加し、具体的な協議を進めます。
 3 国内希少種の保全に関する政府及び関連団体等との情報交換や生息地の調査への参加を推進し、動物収集と保全活動への参画を推進します。

事業開始年度
 随時継続

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称	6年度	5年度	差引 (増減)	増減説明
	1	動物収集事業	12,800	12,900	▲100
2	情報収集事業	1,652	1,674	▲22	見直しによる減
細事業合計		14,452	14,574	▲122	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。

課長	係長	
白井 智廣	五十嵐 隆	森角 興起

令和6年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	□ 新規 □ 拡充	事業評価書番号	3					
歳出予算科目	一般会計	9	款	5	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	繁殖センター管理運営費										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	61,825	0	0	702	0	61,123
令和5年度	56,821	0	0	688	0	56,133
増▲減	5,004	0	0	14	0	4,990

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	55,919	53,892	61,825	61,825	61,825
	市債＋一般財源	55,317	53,304	61,123	61,123	61,123
決算	事業費	50,501	53,326			
	市債＋一般財源	49,979	52,802			

事業概要 (アクティビティ)	繁殖センターにおいて、国際的に絶滅の危機に瀕する動物や、日本産および市内産の希少動物の保全・繁殖に取り組みます。また、繁殖センターでは3動物園での展示による普及効果と平行しながら、一般展示とは隔離した場所で動物福祉に配慮し、できるだけストレスを与えない落ち着いた環境の確保を図り、繁殖、遺伝子等の調査研究を専門的に行っています。										
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業指標① (アウトプット)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
繁殖動物	単位	目標	5	5	5	5	5	5	5
	種	実績	1	5	/	/	/	/	/
事業指標② (アウトカム)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
希少動物種の保存 共同研究	単位	目標	15	15	15	15	15	15	15
	件	実績	16	15	/	/	/	/	/

事業目的	<p>【事業目的】 繁殖センターは、平成11年の開所以来、国内動物園初の非公開繁殖研究専門施設として、飼育動物の繁殖メカニズムの解明やDNA解析による雌雄判別技術の開発など、本市動物園の「種の保存事業」を支える事を目的に事業を進めてきました。また、遺伝資源保存の分野では、これまでに54種の配偶子凍結保存を行い、将来の研究や種の保存に貢献するとともに（公社）日本動物園水族館協会の配偶子バンクの維持管理にも貢献しています。</p> <p>特に近年では、日本産希少動物保全事業において、ニホンライチョウの飼育繁殖技術確立および繁殖研究を推進するとともに、ミゾゴイおよびツシマヤマメノコの繁殖研究や横浜市産希少種（カエル類）の飼育および研究を日本動物園水族館協会等と連携して推進しています。一方で、横浜市立動物園や日本動物園水族館協会および大学等と連携し、希少動物の人工繁殖および遺伝資源保存研究も進めています。</p> <p>【事業効果】 種の保存研究事業については、その研究成果により当センターで飼育する希少動物及び横浜市立動物園の飼育動物の繁殖に貢献するとともに、平成25年度からは日本動物園水族館協会の配偶子バンクの維持管理にも貢献しています。また、特別公開や夏の科学スクール、大学等の講義対応や一般市民向けの見学ツアー、SNSでの情報発信など、市民に対して事業への理解と関心を深める取り組みを随時行ってきました。日本産希少動物保全事業については平成25年度から導入したスバルパルライチョウやミゾゴイの繁殖に成功するとともに、横浜市産のカエル類の飼育繁殖および生息域内での調査研究を実施しています。更に平成30年度から新たにニホンライチョウの飼育および人工授精に取り組み、令和4年度には人工授精に成功しています。加えて、令和3年度からは市内産希少種であるツチガエルの野生復帰を目指し、元の生息地への試験放野も開始しています。また、希少種オガサワラカワラヒワの保全のための知見を得る目的で近縁種である普通種カワラヒワの飼育繁殖の取り組みも始め、令和4年度には当センターとして初めての繁殖に成功しています。</p>										
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

背景・課題	施設開所から20年以上経過し、飼育動物の高齢化および施設内の備品および施設の劣化が著しいことから、引き続き動物の血統更新並びに施設改修、設備更新を計画的に行い、安定的な事業継続を図る必要があります。										
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

根拠法・方針決裁等	横浜市繁殖センター規定 配偶子バンク等事業に関する協定書 平成24年12月方針決裁										
-----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

根拠・データ等	<p>【飼育動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マレーバク：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ・カンムリシロムク：IUCNレッドリストCR（近絶滅種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ・ホオアカトキ：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ・ニホンライチョウ：環境省レッドリスト絶滅危惧IB類(EN)、特別天然記念物、環境省希少動物保護増殖事業対象種 ・カゲー：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種）、ワシントン条約I表 ・コンゴクジャク：IUCNレッドリストVU（危急種）、EEP（欧州絶滅危惧種計画）対象種 ・ミゾゴイ：IUCNレッドリストEN（絶滅危惧種） 										
---------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業スケジュール	<p>令和6年 4月 春季特別公開 8月 科学スクール開催 7～9月 希少動物飼育下繁殖関連会議出席 10月 秋季特別公開 12月 動物園技術者研究会出席</p> <p>令和7年 3月 動物輸送</p>										
----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業開始年度	平成11年度										
--------	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(単位：千円)

細事業名称	6年度	5年度	差引（増減）	増減説明
-------	-----	-----	--------	------

細事業(事業内訳)	1	繁殖センター管理運営費	57,419	52,399	5,020	光熱水費、飼料費の価格高騰等による増
	2	希少動物種の保存研究事業費	4,406	4,422	▲16	実績に基づく減
	細事業合計		61,825	56,821	5,004	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	白井 智廣	尾形 光昭	桐生 大輔

令和6年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	4	
歳出予算科目	一般会計	9 款	5 項	2 目	政策番号	31 施策番号	5
事業名称	希少動物海外交流事業						

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	1,375	0	0	0	0	1,375
令和5年度	1,525	0	0	450	0	1,075
増▲減	▲150	0	0	▲450	0	300

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	860	75	75	1,375	75
	市債+一般財源	860	75	75	1,375	75
決算	事業費	882	118			
	市債+一般財源	882	118			

事業概要 (アクティビティ)	繁殖センターは、開所以来、海外の希少動物について現地政府との間で、生息域内保全活動の一環として、共同研究や動物交換などを通じた海外交流を行っています。							
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
動物交換	単位	目標	1	1	1	1	1	1
	件	実績	1	0				
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
海外交流による本市動物園の価値向上	単位	目標	1	1	1	1	1	1
	動物導入件数	実績	1	0				
事業目的	<p>1 ニューカレドニア希少動物研究交流事業 市制100周年を契機として始まり、ニューカレドニア南部州政府との海外交流事業として、特に固有種である希少鳥カグーの生息域内・域外保全を目的として、共同学術研究や動物交換を行っています。当センターでの飼育繁殖で得られた研究成果は現地のカグーをはじめとする希少動物の生息域内・域外保全活動に役立てられています。</p> <p>2 カムリシロムク野生復帰事業（インドネシアとの交流事業） 平成15年度から本市とインドネシア共和国間でバリ島固有の希少鳥であるカムリシロムクの野生復帰を目的とした事業を開始し、平成16年度からJICA草の根技術協力事業の補助金対象事業として実施してきました（第1期～第4期、3度の事業更新）。現地関係機関により、当センターから送致した個体を元に繁殖させた個体の野生復帰を進めた結果、一度は野外で絶滅したと言われていたカムリシロムクが、野生下で500羽を数えるまでに生息数が回復しています。</p>							
背景・課題	<p>1 ニューカレドニア希少動物研究交流事業 市制100周年を契機として開始しました。</p> <p>2 カムリシロムク野生復帰事業（インドネシアとの交流事業） 平成15年度から本市とインドネシア共和国間でバリ島固有の希少鳥であるカムリシロムクの野生復帰を目的として開始した事業です。</p>							
根拠法令・方針決裁等	横浜市繁殖センター規定 横浜市とニューカレドニア南部州政府における野生動物に関する合意書 カムリシロムクの野生復帰に関わる西部バリ国立公園と横浜市とカムリシロムク保護協会の覚書 平成24年12月方針決裁							
根拠・データ等	<p>【ニューカレドニアとの動物交換実績】 令和4年1月：カグー雌雄各1羽入園、平成31年1月：カムリシロムク雌雄各3羽、オウギバト雌雄各1羽出園 平成23年6月：カグー雌2羽入園、平成22年3月：カグー雌雄各1羽、オオミカドバト雌雄各1羽入園</p> <p>【カムリシロムクのインドネシア送致実績】 平成30年11月：15羽 平成28年3月：20羽 平成25年3月：25羽 平成22年11月：30羽 平成20年3月：20羽 平成18年1月：30羽 平成16年6月：20羽 計160羽</p>							
事業スケジュール	令和6年度通年：関係各所との事業調整							
事業開始年度	平成11年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称	6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
	1	ニューカレドニア希少動物研究交流事業	1,325	1,025	300
2	カムリシロムク野生復帰事業	50	500	▲450	内容見直しに伴う減

	細事業合計	1,375	1,525	▲150	
--	-------	-------	-------	------	--

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	白井 智廣	尾形 光昭	桐生 大輔

令和6年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	5					
歳出予算科目	一般会計	9	款	5	項	2	目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	野生鳥獣対策事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	18,739	0	6,738	33	0	11,968
令和5年度	18,471	0	6,738	29	0	11,704
増▲減	268	0	0	4	0	264

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	17,368	16,844	18,739	18,739	18,739
	市債+一般財源	10,602	10,082	11,968	11,968	11,968
決算	事業費	15,294	15,693			
	市債+一般財源	9,024	9,195			

事業概要 (アクティビティ)	野生生活被害を発生させるアライグマやハクビシン、タイワンリスへの被害対策を実施し、捕獲罠の貸出を継続します。また、市民や団体、農協に鳥獣の捕獲許可証を発行し捕獲駆除への支援を行います。さらには、カラスの繁殖期に人への威嚇攻撃の原因となる巣立ちビナの緊急回収を行います。								
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
アライグマ・ハクビシン捕獲数	単位	目標	850	900	1000	1000	1100	1100	1200
	頭	実績	1015	1085					
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
市民捕獲依頼数	単位	目標	1400	1400	1500	1600	1600	1500	1500
	件	実績	1526	1485					
事業目的	野生鳥獣による生活被害等から安全・安心な市民生活を確保します								
背景・課題	横浜市内では人間の生活圏と野生動物との距離が近くなり、野生動物による物品の損傷や家屋侵入などの生活被害が生じており、特に近年、アライグマやタイワンリスなどの外来種が増えてきており、被害がより顕著になっています。								
根拠法令・方針決裁等	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律・第3次神奈川県アライグマ防除実施計画、神奈川県鳥獣保護管理対策事業費補助金交付要綱								
根拠・データ等	根拠法令等 ・鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 ・第3次神奈川県アライグマ防除実施計画、神奈川県鳥獣保護管理対策事業費補助金交付要綱 ・アライグマ被害対策実施要綱 ・ハクビシン生活被害対策実施要綱 ・ハクビシン農業被害対策実施要綱 ・カラス生活被害対策実施要綱 ・クリハラリス被害対策実施要綱								
事業スケジュール	・アライグマ・ハクビシン対策（通年） ・カラス対策（4～8月） ・タイワンリス対策（通年） ・鳥獣保護管理法に係る業務（通年） ・その他連絡調整（通年）								
事業開始年度	平成17年度								

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
	1	野生鳥獣対策事業	18,739	18,471	268	
細事業合計		18,739	18,471	268		

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長 白井 智廣	係長 相浦 正弘	松岡 良樹
------------------------------------	-------------	-------------	-------

令和6年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	6	
歳出予算科目	一般会計	9 款 5 項	2 目	政策番号	31	施策番号	5
事業名称	動物園基金事業						

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	20,700	0	0	15,500	0	5,200
令和5年度	13,220	0	0	8,001	0	5,219
増▲減	7,480	0	0	7,499	0	▲19

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	10,271	10,244	20,700	20,700	20,700
	市債＋一般財源	5,270	5,243	5,200	5,200	5,200
決算	事業費	10,070	10,072			
	市債＋一般財源	488	551			

事業概要 (アクティビティ)	横浜市へのふるさと納税を基金へ積立し、海外から中大型動物の導入を行う財源とする。							
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
寄附金の額(年度)	単位	目標	500万	500万	800万	1,550万	1,550万	1,550万
	円	実績	808万	1,391万				
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
基金の積み立て額(累計)	単位	目標	3,700万	5,100万	6,000万	7,150万	8,300万	9,450万
	円	実績	4,600万	5,600万				
事業目的	下記背景と課題に対応するため、動物収集を資金的な裏付けの下で着実に行えるよう、動物園に不可欠な動物の収集及びこれに附帯する事業の推進に活用します。							
背景・課題	動物園の役割の一つとして、種の保存があることから、生物多様性の保全への国際的な貢献が求められています。これに対応するためには、遺伝的多様性の確保等から国際間での調整が必要であるという背景と課題があります。							
根拠法令・方針決裁等	ワシントン条約(CITES)、地方税法第37条の2、地方自治法第241条、横浜市動物園基金条例							
根拠・データ等	ワシントン条約(CITES)や海外との調整後、中大型動物が導入可能になった際に実施。							
事業スケジュール	寄附金等受納 令和5年4月以降 随時受け入れ後基金へ積立							
事業開始年度	平成29年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
	1	動物園基金事業	20,700	13,220	7,480	
	細事業合計	20,700	13,220	7,480		

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長 白井 智廣	係長 関 美有希	小島 千明
------------------------------------	-------------	-------------	-------